

# 「第 41 回日本緑化工学会大会」案内（第 3 回）

第 41 回日本緑化工学会大会運営委員長 坂本圭児

標記大会を下記の要領で開催いたします。会員はじめ多数の皆様のご参加をお待ちしております。

## 1. 大会概要

### (1) 日程

2010 年 9 月 25 日（土）～9 月 26 日（日）

9 月 25 日（土）研究発表，資材工法展示，研究集会，総会，懇親会

9 月 26 日（日）研究発表，資材工法展示，研究集会

緑化・環境 CPD の詳細については，下記 URL をご参照下さい。

<http://www.gaecpd.com/>

### (2) 会場

岡山大学創立 50 周年記念館

(岡山市北区津島中 1-1-1 TEL:086-251-7057)

[http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access\\_4.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html)

[http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/tsushima\\_w.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/tsushima_w.html)

次ページに詳細図とアクセス方法が記載されています。

懇親会会場

リーセントカルチャーホテル

(岡山市北区学南町 1-3-2

TEL: 086-253-2233)

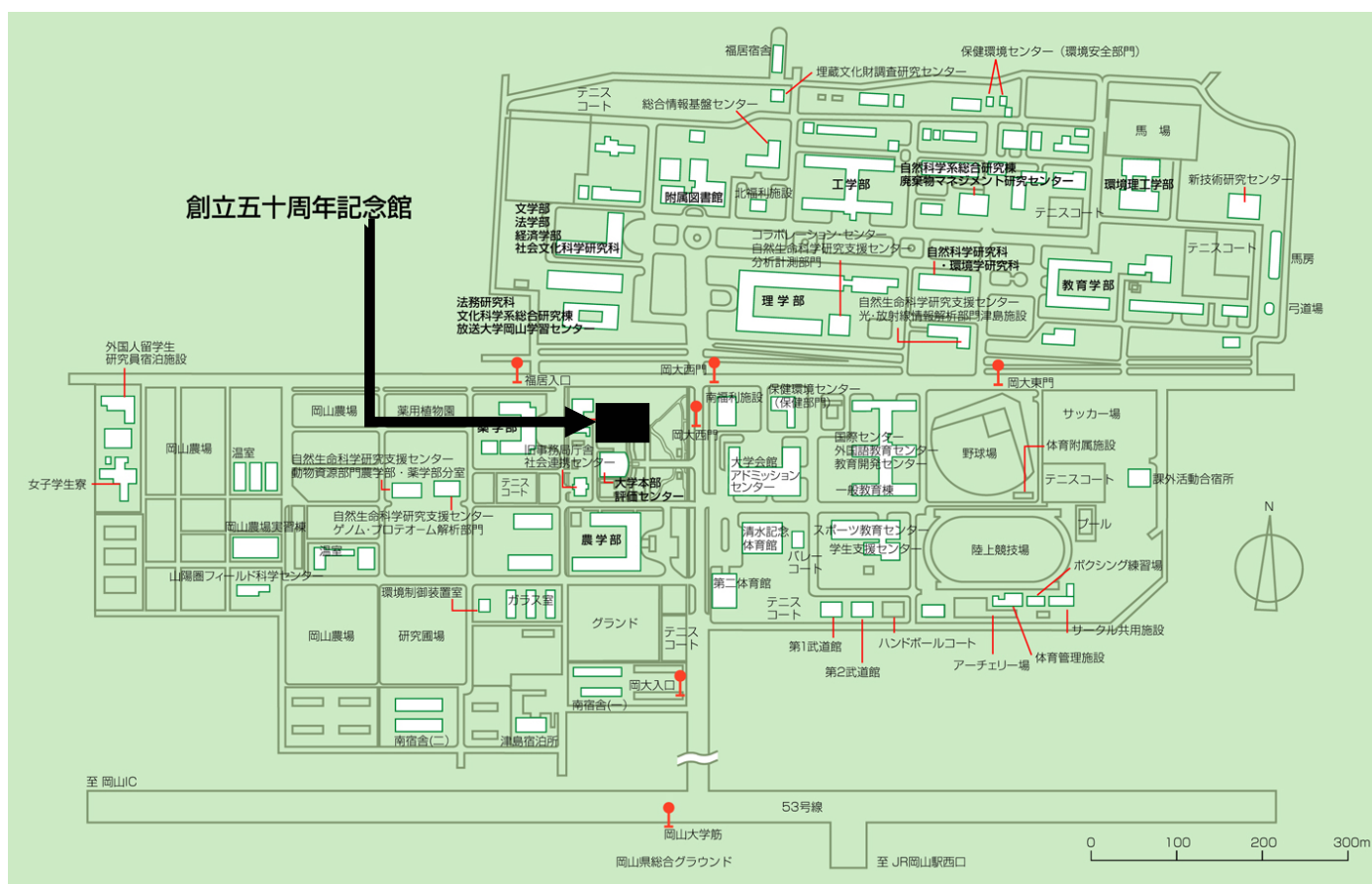
<http://www.culture-hotel.com>

/access.html

岡山大学創立 50 周年記念館

から徒歩約 10 分





### (3)会場へのアクセス

#### ■JR 岡山駅→バス：

1. 岡山駅西口バスターミナル 22 番乗り場から【47】系統「岡山理科大学」行きに乗車、「岡大西門」で下車  
 ※所要時間約 7～10 分
2. 岡山駅東口バスターミナル 3 番乗り場から【17】系統「妙善寺」行に乗車、「岡大西門」で下車  
 ※所要時間約 30 分
3. 岡山駅東口バスターミナル 7 番乗り場から【16】系統「津高台団地・半田山ハイツ」行き，【26】系統「岡山医療センター国立病院」行き，【36】系統「辛幸」行き，【86】系統「免許センター」行きに乗車「岡山大学筋」で下車→大学まで徒歩  
 ※所要時間バス約 10 分 徒歩約 7 分

#### ■JR 岡山駅→タクシー：

岡山駅：西口広場 2F タクシー乗り場から約 7 分

#### ■JR 岡山駅→JR

津山線「法界院」駅，徒歩約 10 分

#### ■岡山空港（航空機）→バス

岡山空港 2 番，3 番乗り場から「岡山市内方面」行に乗車，「岡山大学筋」で下車，徒歩約 7 分。ノンストップ便は「岡山駅」で下車，岡山駅からの各種交通機関を利用

## 2. 参加申込方法・参加費用

当日、受付にて参加費用をお支払いください。前納受付は終了しました。

		正会員	学生会員	賛助会員	非会員	非会員学生
大会参加費	当日	4,000円	1,000円	5,000円	6,000円	2,000円
懇親会費	当日	5,500円	3,500円	5,500円	5,500円	3,500円

※賛助会員と非会員の大会参加費には、資料代（学会誌 36 巻 1 号）が含まれています。

※非会員学生の大会参加費には資料代が含まれておりませんので、必要に応じて別途ご購入下さい。

## 3. 大会プログラム

受付：エントランスホール

9月25日午前9：00～

9月26日午前8：30～

9月25日	多目的ホール	大会議室・小会議室	中会議室	交流サロン・ ホワイエ	交流サロン・ ホワイエ	ゲストルーム
9:00:～		論文・技術報告 ポスター展示	発表準備スペース	研究交流発表会 ポスター展示	資材・工法展示	研究集会控室
9:55～10:00	開催挨拶					
10:00～12:00	口頭発表1					
12:45～14:00	学会賞表彰・総会					
14:00～16:00	研究集会1					
16:00～18:30	研究集会2	↓	↓	↓	↓	↓
19:00～21:00	懇親会(リーセントカルチャーホテル)					

9月26日	多目的ホール	大会議室・小会議室	中会議室	交流サロン・ ホワイエ	交流サロン・ ホワイエ	ゲストルーム
9:00～12:00	口頭発表2	論文・技術報告 ポスター展示	発表準備スペース	研究交流発表会 ポスター展示	資材・工法展示	大会運営委員会・ 学会委員会
12:00～13:00		↓	評議員会			
13:00～14:30		論文・技術報告 ポスター コアタイム		↓		
14:30～16:00				研究交流発表会 ポスター コアタイム	↓	
16:00～17:00			研究集会3			↓
17:00～	ポスター賞表彰 閉会挨拶					

※理事会は、大会前日9月24日（金）に岡山大学農学部1号館で開催予定です。

※研究集会3では、必要に応じて他の会議室との間仕切りを取り外し、スペースを広げます。

※本大会のプログラムには、緑化・環境 CPD 認定行事が含まれており、CPD ポイントがつきます。

当日、CPD カードをご持参下さい。なお、ポイントの詳細については学会 HP の大会案内に掲載予定です。

#### 4. 研究発表（論文・技術報告）

■論文・技術報告 口頭発表1 9月25日（土） 10：00～12：00（発表12分，質疑応答3分）

◇会場：多目的ホール

No.	タイトル	著者名	頁
O-01-T	堆肥化に伴う剪定枝葉チップ材表面の微細構造の変化	高橋輝昌・越田淳平・長嶺利樹・加藤顕	183
O-02-T	木質系堆肥の水田への施用が土壌の性質とメタンフラックスに及ぼす影響	岩月良介・山本理恵・高橋輝昌・平野義勝	187
O-03-T	瓦再生骨材としての透水性舗装材および土壌改良材としての性能評価	篠原章宏・米田稔・片岡利仁・尾坂高明・新井貴史・小島玉雄	175
O-04-T	京都府立植物園における廃瓦を用いた桜園土壌改良方法の評価	吉田麻美・米田稔・片岡利仁・尾坂高明・小倉研二・小島玉雄	179
O-05-T	住宅地内に孤立した湿地の市民参加による植生モニタリング	相澤章仁・田代順孝	231
O-06-T	都市公園での刈り取り管理によるスズラン個体群の回復	成田瑞樹・近藤哲也・中村まい・笠康三郎	147
O-07-T	特定外来生物（ナルトサワギク）に対する改良客土による成長抑制実験結果報告	杉浦弘毅・大藪崇司・藤原道郎・田中賢治・朝日伸彦・中屋深佳	139
O-08-T	生物多様性に配慮した雄性不稔トールフェスク“エムエスティワン”の特性調査（その2）	入山義久・立花正・藤森雅博・荒川明・小松敏憲・高溝正	107

■論文・技術報告 口頭発表2 9月26日（日） 9：00～12：00（発表12分，質疑応答3分）

◇会場：多目的ホール

No.	タイトル	著者名	頁
O-09-T	観葉植物のポトスとサンセベリアにおける明・暗条件下でのガス交換と室内空気中のホルムアルデヒド除去	堀田一樹・木村正典・宮田正信・竹中幸三郎	203
O-10-T	歩行専用道路を活用した緑のネットワーク形成における生活動線としての機能に関する研究	廉晟振	227
O-11-T	湿生植物群落内への水の循環による浅水開水面の水温上昇抑制	辻盛生	191
O-12-A	マット植物を用いた屋根緑化による暑熱軽減効果	柴田忠裕	39
O-13-A	日本人学生および中国人留学生を被験者とした屋上緑化の景観評価	烏雲巴根・長谷川祥子・下村孝	69
O-14-A	日本における「のり面緑化工」の起源と変遷について	飯塚隼弘・近藤三雄	15
O-15-T	広島県内の法面緑化18事例の植生追跡調査	山田守	115
O-16-T	資源循環型緑化工の施工事例における施工後約6年間の植生追跡調査	北山敬三・山田守	123
O-17-T	耐酸性菌根菌を活用した強酸性法面緑化適用の可能性	田中淳・堀江直樹・江澤辰広・伴資英	119
O-18-T	中国黄河中流域における荒廃山地の早期樹林化手法に関する実験的研究	大林直・斉藤誠・佐舗宣行・山寺喜成・宮崎敏孝・楊喜田	171
O-19-T	中国半乾燥地域における保育ブロック苗を用いた生態回復手法に関する実験的研究 ―中国内蒙古自治区興和県の荒廃丘陵地を例として―	斉藤誠・顧衛・邵琪・大林直・陳述悦・戴泉玉	167
O-20-A	中国内蒙古毛烏素沙地に自生する沙柳（ <i>Salix psammophila</i> ）の生育に及ぼす埋砂の影響	寺南智弘・中島敦司・仲里長浩・市原論・黒瀧麻衣・山本牧子・山本将功・吉川賢・張国盛	87

■論文・技術報告 ポスターセッション 9月26日(日) 13:00~14:30(コアタイム)

◇場所:大会議室・小会議室

コアタイム (\*:13:00~13:45, \*\*:13:45~14:30)

No.	タイトル	著者名	頁
P-01-A *	丹沢山地における崩壊跡地の植生回復に影響に関する研究	松崎紀雅・石垣逸朗・阿部和時・園原和夏・内山佳美	21
P-02-A **	人工林を対象とした分布型表層崩壊モデルの適用について	執印康裕・松英恵吾・有賀一広・田坂聡明・堀田紀文	27
P-03-A *	間伐木を利用した筋工による森林表土の流亡抑制	山瀬敬太郎・栃本大介・関岡裕明・藤堂千景	9
P-04-A **	オオバヤシャブシ ( <i>Alnus sieboldiana</i> Matsumura) の優占する緑化法面における正味のCO <sub>2</sub> 固定量の推計	橘隆一・藤江幸一・千束智宏・福永健司・太田猛彦	3
P-05-A *	ケテイカカズラ ( <i>Trachelospermum jasminoides</i> var. <i>pubescens</i> ) の気根および巻きつき茎による板塀やフェンスへの登攀特性	佐々井俊文・下村孝	45
P-06-A **	つる性植物へのヒートパルス法の適用 — パーゴラに誘引したトケイソウ ( <i>Passiflora caerulea</i> ) の蒸散量測定 —	竹内真一・増山港	51
P-07-A *	小規模河川河口域の砂州にみられる海浜草本群落と微地形の関係	黒瀧麻衣・中島敦司・山本将功・仲里長浩	75
P-08-A **	静岡県遠州灘海岸における堆砂が海浜植生に及ぼす影響	岡浩平・吉崎真司・小堀洋美	81
P-09-A *	クロマツ二次林林床において刈り取られた植物体に含まれる発芽可能な繁殖器官の種多様性と種構成	山田晋・石川祐聖・榎本百利子・南定雄・加藤和弘	33
P-10-A **	昭和前期における樹木治療法の継承および治療主体の変遷	兼村星志・大藪崇司	57
P-11-A *	作業室内の小型および大型植物が作業者の心理に及ぼす影響の比較検討	長谷川祥子・下村孝	63
P-12-T **	観葉植物のポトスへの水分ストレスが室内空気中のホルムアルデヒドの吸収・吸着効果に及ぼす影響	堀田一樹・木村正典・宮田正信・竹中幸三郎	207
P-13-T *	沿岸域に生育する常緑広葉樹5種の塩分付着による耐潮性比較	中島有美子・吉崎真司	219
P-14-T **	ホオノキ ( <i>Magnolia obovata</i> ) の樹齢から見た植生の変遷	清水冬音・芦澤和也・倉本宣	163
P-15-T *	苗木の里における万葉植物の生産動向	七海絵里香・大澤啓志・勝野武彦	223
P-16-T **	低温貯蔵した現地採取種子による自然回復緑化	小野幸菜・氏家豊和・吉田寛	99
P-17-T *	国内採取した落葉性在来高木類の種子発芽率	橘隆一・中村華子・福永健司	95
P-18-T **	緑化法面における散布種子と周辺植生との関係	小向真人・福永健司	103
P-19-T *	草刈りの実施は緑化施工後初期林道のり面へ在来種の侵入を促進するか?	小林慶子・林 敦子・田中涼子	111
P-20-T **	堤防法面における地域性を考慮した在来草本による緑化事例	大和田壘・佐々木祐司・岡村俊邦	127
P-21-T *	天竜川上流および三峰川の堤防法面におけるチガヤマット設置の効果	水沼薫・木村保夫・佐藤靖	131
P-22-T **	天竜川上流の堤防法面におけるオオキンケイギクの抑制手法の検討	百瀬剛・藤田淳一・佐藤靖	135
P-23-T *	カバークロープを利用した休耕田の問題雑草の管理	稲垣栄洋・松野和夫・大石智広・高橋智紀・山口翔	159

No.	タイトル	著者名	頁
P-24-T **	都市域の遊水池公園における直翅目の生息状況と人的管理の影響	根津準一郎・大澤啓志・勝野武彦	151
P-25-T *	カワラノギク ( <i>Aster kantoensis</i> Kitamura) 局所個体群再生のための造成手法	倉本宣・芦澤和也・岡田久子	143
P-26-T **	湿性池希少植物・タコノアシ ( <i>Penthorum chinense</i> Pursh.) の保全・管理に関する実験的研究	鬼丸真光・小島仁志・勝野武彦	155
P-27-T *	緑地環境の造成及び維持管理における市民運動の重要性とあり方 —イギリスの「グリーンフラグアワード」の事例を通して—	李志雄・廉晟振	235
P-28-T **	街路樹の植栽形式と樹種選定に関する住民と専門家の視点の差異	藤崎健一郎・片岡紗織・勝野武彦	215
P-29-T *	屋上緑化の熱環境と利用者の選好度に関する調査	金甫炫・田代順孝	199
P-30-T **	幼稚園・保育所の芝生化における意識調査	渋谷圭助・中村圭亨	195
P-31-T *	オフィスワーカーの緑に対する意識と利用に関する研究	川口徹也・岩崎寛	211

## 5. 研究交流発表会 ポスターセッション 9月26日(日) 14:30~16:00(コアタイム)

◇場所：交流サロン・ホワイトエ

コアタイム \*：14：30～15：15，\*\*：15：15～16：00)

No.	タイトル	著者名	頁
PE-01 *	ヤナギ属5種における木部の通水機能の損失と回復	村上由貴・三木直子・賀燕・小笠真由美・吉川賢	1
PE-02 **	サツキ苗植栽時における吸水ポリマー施用量の検討	石坂知行・山瀬敬太郎・伊達寛	2
PE-03 *	膨軟化木材チップを用いた法面緑化における生態系再生過程	栗林祐大・高橋輝昌・池田昌義・沓澤武	3
PE-04 **	未利用バイオマス由来のリサイクル資材を充填したマイクロコズムへの中型土壤動物の侵入	伊藤大輔・福永健司・橘隆一	4
PE-05 *	エチゼンクラゲ類を用いた山腹工	村上尚哉・竹本雅之・乗松秀樹・兵藤充祥・松下義雄・江崎次夫・河野修一・川崎哲郎・田中健一・松本淳一・白石隆介・土居幹治・車斗松・全権雨	5
PE-06 **	エチゼンクラゲを活用した海岸砂丘地の緑化	河野修一・川崎哲郎・江崎次夫・車斗松・全権雨	6
PE-07 *	菌根菌を用いた緑化	河野修一・川崎哲郎・江崎次夫・車斗松・全権雨	7
PE-08 **	植生マットを用いた山腹工	田中健一・村上尚哉・竹本雅之・乗松秀樹・兵藤充祥・松下義雄・江崎次夫・河野修一・川崎哲郎・車斗松・全権雨	8
PE-09 *	チガヤを用いる畦畔の緑化—畦畔への侵入形態—	川崎哲郎・河野修一・江崎次夫・車斗松・全権雨	9
PE-10 **	外来種によるMinimum Intervention (MI) 緑化 一切土盛土のり面における自然回復緑化に向けて—	内田泰三・荒瀬輝夫・早坂大亮・石田和宏・小柳誠・柳田博史	10
PE-11 *	長期間乾燥貯蔵したマメ科木本3種の発芽率推移	中村華子・橘隆一・福永健司	11
PE-12 **	3~4年間低温貯蔵した温帯性落葉中低木類の種子発芽率	中村華子・橘隆一・福永健司	12

No.	タイトル	著者名	頁
PE-13 *	高濃度火山ガスの影響を受けた三宅島噴火堆積物斜面における噴出物表層部堆積構造の変化と植生回復過程	小川泰浩・黒川潮・大丸裕武・阿部和時・久保寺秀夫	13
PE-14 **	愛媛県今治市笠松山の森林再生	川崎哲郎・河野修一・中谷早織・石岡優子・江崎次夫・砂田栄二・島崎利勝・大本幸徳・有間安子・越智至・田中健一・車斗松・全権雨	14
PE-15 *	モンゴル国forest-steppe地域における北方林樹種の山火事に対する更新応答と遷移過程	音田高志・坂本圭児・廣部 宗・吉川 賢・土井孝大・Baatarbileg Nachin	15
PE-16 **	山火事レジームが野生ツツジ群落の開花景観に与える影響	濱本菜央・水本絵夢・森本淳子・中村太士・森本幸裕	16
PE-17 *	香川県直島における野生ツツジ群落の施業試験 - 4年目の効果-	水本絵夢・森本淳子・濱本菜央・平林研人・森本幸裕	17
PE-18 **	窒素飽和が危惧される森林における微生物バイオマスCNPの指標性の検討	古澤仁美・稲垣昌宏・伊藤優子・小林政広・三浦寛	18
PE-19 *	ヒノキ人工林における強度間伐が表層土壌に与える影響	小林亜理沙・廣部宗・兵藤不二夫・近藤順治・嶋一徹・坂本圭児・吉川賢	19
PE-20 **	植生は竹林の拡大に影響を及ぼすか?	河合洋人・栗屋善雄・西條好迪	20
PE-21 *	遺構に及ぼす樹木の影響	江崎次夫・河野修一・川崎哲郎・田中謙・廣瀬岳志・下條信行・車斗松・全権雨	21
PE-22 **	都市の温暖化防止対策	江崎次夫・河野修一・石岡優子・中谷早織・川崎哲郎・車斗松・全権雨	22
PE-23 *	温熱感指標の計測による都市緑道の夏季快適性評価 - 岡山市の西川緑道公園と緑道臨港アベニュー -	大橋唯太・野田珠生	23
PE-24 **	冬期寒冷地における屋上緑化の効果に関する研究	林貴之・杉浦俊弘・馬場光久	24
PE-25 *	中庭「ビオトープ・パッケージ」に関する研究	藤瀬弘昭・高木陽・田中章	25
PE-26 **	植栽景観のストレス緩和効果に関する研究手法の考察	山本聡	26
PE-27 *	航空機または地上型レーザーによる樹木形状把握	加藤頭・小林達明・根本光	27
PE-28 **	3次元レーザスキャナを用いた法面の微地形評価	中村彰宏・田中淳・井上裕介	28

## 6. 資材・工法展示の概要

◇ 出展者：国土環境緑化協会 中国支部

テーマ：「獣害対策資材・工法のご提案！！鹿などによる獣害からのり面を守ります」

内容：鹿による森林被害面積は 3,500ha を超えると言われていています。長年のり面緑化に取り組んできた技術を活かし、現場条件に合わせた鹿を主とする獣害防止対策用の資材と工法をご紹介します。

◇ 出展者：NPO 法人日本バーク協会

テーマ：「バーク堆肥製造の品質管理について(化学分析と幼植物検定について)」

内容：NPO 法人日本バーク堆肥協会は、バーク堆肥の品質管理について特に活動重点を置いています。そのために、会員の入会時における厳密な審査と会員製品の毎年度一斉検定を行なって、その品質チェックをおこなっています。一斉検定では、化学分析とコマツナ播種生育による幼植物検定をおこない、協会品質基準値に対する合否判定をしています。

◇ 出展者：雪印種苗株式会社

テーマ：「自然生態系に配慮した緑化用矮性種子及び、施工性・ローメンテナンス性に優れた生分解性マット基盤ロール芝のご紹介」

内容：従来品種よりも種子の飛散による雑草化のリスクが少ない、草丈の低い矮生品種の他、軽量で施工性・メンテナンス性に優れた生分解性マット基盤ロール芝をご紹介します。

◇ 出展者：エスペックミック株式会社

テーマ：「在来植物による法面緑化」

内容：チガヤによる法面の緑化事例とその効果について展示します。また日本在来のメヒシバの種子を使った法面緑化シートや、沈水植物マット、長尺ポット苗など新しい緑化アイテムを紹介します。

## 7. 研究集会

### ◆ ポスト URBIO 連続シンポジウム「生物多様性の技術と政策」(研究集会1, 研究集会2)

国際生物多様性年の今年、5月18日～22日の会期で、国際会議「都市における生物多様性とデザイン」が名古屋市にて開催されました。その結果をフォローアップし、生物多様性の保全及び改善に関わる技術と政策についての議論を発展させるために、本学会では、次の二つの研究集会を開催することにしました。人と自然のよりよい関わりを築く学術について、会員外の皆さんも含め、広く討論を呼びかけます。

#### ◇研究集会 1:「環境生態再生学の可能性」

趣旨：

わが国は成熟社会に入り、新しい国土のあり方が問われている。その際のキーワードの一つは「持続可能性」であるが、その観点から、自然環境の保護や創出のほかに、再生の重要性が指摘されている。本学会でも、環境アセスメント法や地域性種苗の取組、自然再生事業に関連した集会・シンポジウムを企画してきた。この集会では、緑化工学の今後の発展の鍵として、環境生態再生学 (ecological restoration) の学問と可能性を改めて検討したい。基調講演では、米国よりカーン・ユーイング教授をお迎えし、環境生態再生学が伝統的学問体系といかなる関係を持ち、どのような新たな視点を加えながら米国で展開しているのか紹介いただく。加えて、わが国で進んでいる取組を参考にして、その可能性について討論したい。

『プログラム』

日時：9月25日(土) 14:00～16:00



会場：多目的ホール

趣旨説明：小林達明（千葉大）：5分

基調講演

「再生における園芸学と生態学（Horticulture and Ecology in Restoration）」

カーン・ユーイング（ワシントン大）：40分

通訳：加藤 颯（千葉大）

話題提供：

- ・環境生態再生（自然再生）はビジネスになるか？」・・・日置佳之（鳥取大）：20分
- ・大学教育における環境生態再生学の試み・・・野呂恵子・倉本宣（明治大）：20分

討論（司会：大澤啓志，日本大）30分

総括

森本幸裕（京都大・URBIO2010議長）：5分

企画：生物多様性緑化研究部会，企画責任者：大澤啓志（日本大）

## ◇研究集会 2：「都市における生物多様性指標の開発」

趣旨：

- ・世界の都市人口割合が増加し続けていること。
- ・都市の生物多様性に対する影響が大きく，かつ対処能力があること。
- ・生物多様性条約締約国会議での都市の重要性の指摘。
- ・都市の生物多様性は国際自治体会議，CBD COP10でのテーマのひとつ。
- ・URBIO 2010での都市の生物多様性指標 WSへの関心の高さ。
- ・都市緑化に関する考え方の生物多様性から見た見直しの必要性。
- ・学術と産官民の連携の必要性。
- ・シンガポール，名古屋市等の活動との連携

『プログラム』

日時：9月25日(土) 16：00～18：30

会場：多目的ホール

趣旨説明：森本幸裕（京都大）：5分

話題提供（仮題）：

- ・シンガポール指標とその改良・・・・・・・・・・加藤正嗣（名古屋市）：25分
- ・生物からみた評価手法・・・・・・・・・・夏原由博（名古屋大）：25分

<休憩10分>質問・コメント回収

コメントと討論（司会：森本幸裕）

大石善隆（信州大）：蘚苔類指標の可能性

増澤直（榊地域環境計画）：緑地計画の視点から

伊東啓太郎（九州工大）：社会・人文指標の視点から

今西純一（京都大）：リモセン利用の可能性

今西亜友美（京都大）：氾濫原都市化指標

井鷲裕司（京都大）：遺伝情報の視点から

コメント各6分，討論44分

総括

小林達明（千葉大・日本緑化工学会長）5分

企画・責任者：森本幸裕

（科研基盤（A）代表：森本幸裕：「都市における生物多様性指標の開発」研究集会）

### ◆「緑化工学会・巡回ワークショップ」検討会(研究集会3)

今後、活動フィールドを拡げ、地域に貢献することを目的に、緑化工学会が取り組むべき普及活動を多くの学会員で考え提案していくため、次のように研究集会として意見交換会を開催いたします。

### ◇研究集会3:「日本緑化工学会の会員が取り組む普及活動についての意見交換会」

#### 趣旨:

現在日本緑化工学会では、年一回の大会が行われていて、これは研究者と技術者との知識交流の役割を果たす重要な機会となっています。しかし大会など学会行事に参加する会員は限られており、また、学会員でない業界関係者との交流も望まれます。

そこで、本学会が主催して各地域で研究集会や現地検討会を行うことにより、産官学一体となった自然再生事業につながっていく普及活動ができないかと考えました。

今後は自然再生への社会的要求の高まりや事業の複数年度化が見込まれますが、その際に求められる技術や知識を持った技術者がそれぞれの地域で、地域にあった計画を立案できるようにすることが非常に大切であると考えます。また同時に学会からは、社会活動、地域貢献に取り組み、最新の研究成果を地域の再生に活用したり、活動の裾野を広げる企画を行ったりすることができれば望ましいと考えます。

学会の有志で取り組めることから協力し合って始めたいと思い、そのきっかけとして今回の集會を企画いたしました。大会に集まった会員のみならず忌憚のないご意見を頂いて、これからの活動につなげる機会としたいと考えております。

日時：9月26日(日) 16:00~17:00

会場：中会議室

話題提供(予定)

#### 1. 中村華子(緑化工ラボ)

「学会が取り組むべき普及活動についてのアンケート結果報告」

当学会評議員を主な対象に、事前に「当学会で取り組むべき普及事業」について、アンケートをとらせていただきました。その結果をとりまとめてご報告いたします。

#### 2. 下村 孝(京都府立大)

「緑の質向上のために学会が果たすべき役割について」

#### 意見交換会

「日本緑化工学会の会員が取り組む普及活動について」

企画・責任者：中村華子(緑化工ラボ)

### 8. 日本緑化工学会ポスター賞

日本緑化工学会では、若手研究者および若手技術者を奨励するため、若手会員を筆頭発表者とするポスター発表を対象として、緑化工学会大会に相応しい優れたポスター発表を選定し、その発表者に日本緑化工学会ポスター賞を授与します。論文部門、技術報告部門、および研究交流発表会という3つのカテゴリーごとにポスター賞が選定されます。

### 9. 大会運営委員会

第41回日本緑化工学会大会運営委員会

委員長：坂本圭児 幹事：嶋 一徹、廣部 宗、三木直子、山田義裕 顧問：吉川 賢

〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1

岡山大学大学院環境学研究科(農学部)

TEL：086-251-8375(坂本圭児直通) FAX：086-251-8388(農学部事務室)

E-mail：ryokuka41@cc.okayama-u.ac.jp